

セルフレベリング材施工要領書

(新築工事版)

平成 21 年 11 月

日本建築仕上材工業会

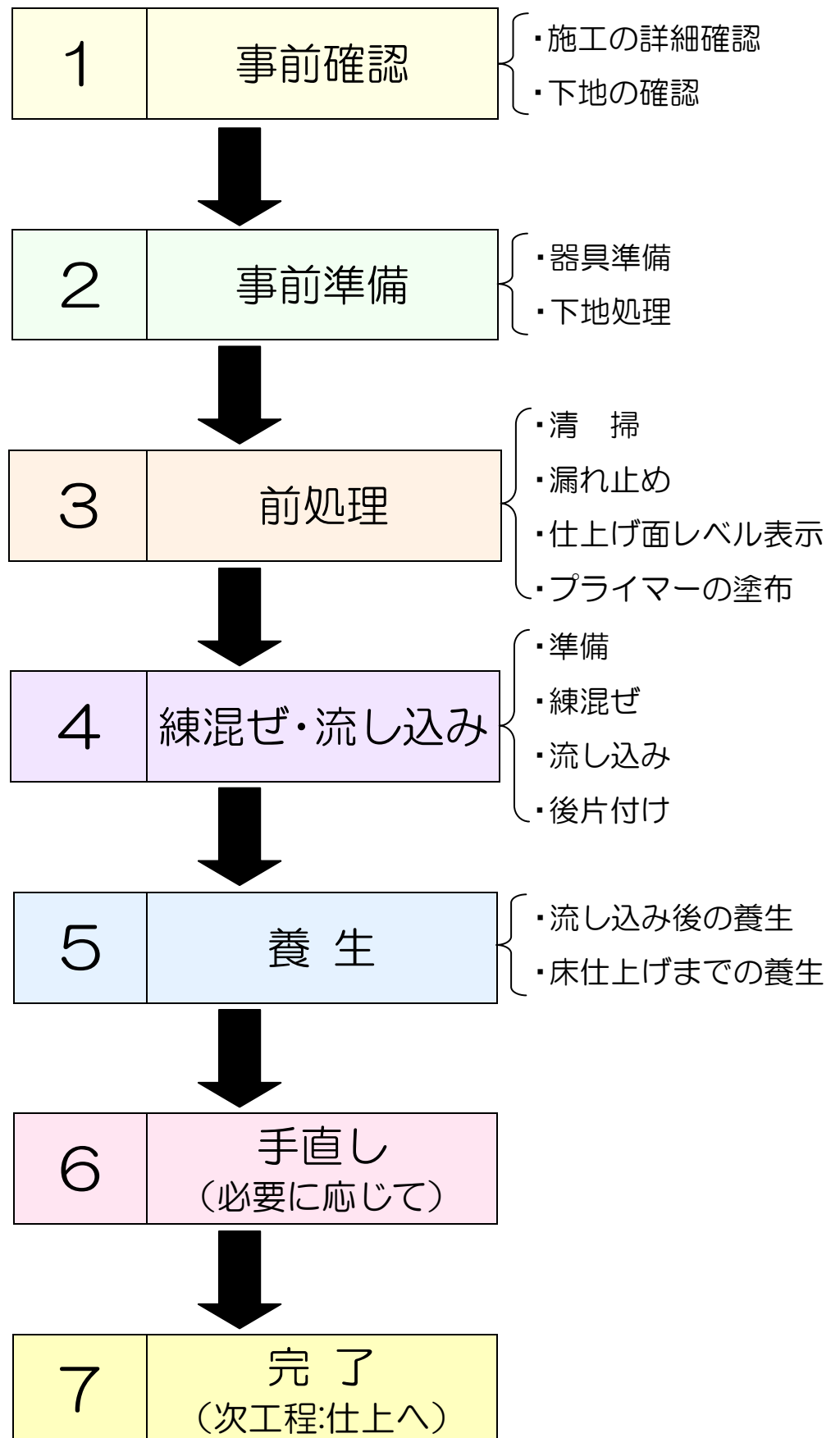
S L 材 部 会

(日本床施工技術研究協議会 監修)

1. 適用範囲

この施工要領書は、セルフレベルング材
(S L 材)による床塗り新築工事に適用する。

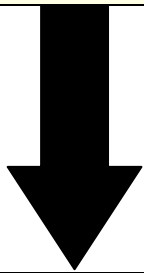
2. 施工フローチャート



3. S L 材の施工手順

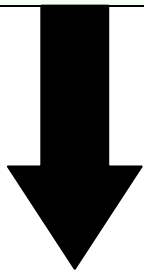
工 程	施工要領	留意点
1 事前 確認	(1)施工の詳細確認 ①供給方法 袋物、スラリートイプ ②S L 材の厚さ 適用範囲：最小 5 mm 最大 20 mm ③現場状況 残材捨て場、開口部、作業場、電源、 水、施工環境温度 (2)下地の確認 ①下地種別 適用下地：コンクリート ※) それ以外のモルタル、A L C、 P C a 部材、合板等の場合は、 接着不良等の可能性があるため、 S L 材製造業者に相談する。	①固定プラント式の場合 は、輸送時間および可 使時間を考慮し、施工計 画を立てなければならない。 ②適用範囲を外れる場 合は製造業者に相談す る。 ③プライマー塗布から S L 材硬化までの室温 は 5℃以上を標準とす る。 ①コンクリート下地の 上面仕上げは、木ごての むらとり + 金ごて1 回押えを標準とする。 なお、下地コンクリート の乾燥期間は、28 日以 上とする。 モルタルの乾燥期間は、 ・夏期 14 日以上 ・冬期 21 日以上

	②下地の状態 以下の場合には事前処理を必要とする。 i) レイタンスがある ii) 表面が脆弱である（雨打たれ） iii) 油分がしみ込んでいる iv) 極端な凹凸・不陸がある v) 接着不良の可能性がある	v) 機械こて等による過度の鏡面仕上げ、養生剤使用、塗料 等
--	---	---------------------------------------



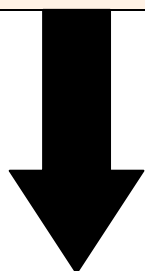
工 程	施工要領	留意点
2 事前準備	(1) 器具準備 ① レベル出し…水準器（レーザー等）、墨つぼ ② 清掃…掃除機、ほうき ③ プライマー塗布…バケツ、デッキブラシ等 ④ 練混ぜ、流し込み…ミキサー、ホッパー、圧送ポンプ ⑤ 均し…トンボ、こて、左官ゲタ (2) 下地処理 i) レイタンスがある場合 →ポリッシャー等で完全に除去する。	④ミキサーはS L 材製造業者の仕様に従う。

	ii) 雨打たれの場合 →ポリッシャー等で脆弱部を完全に除去する。 iii) 油分がしみ込んでいる場合 →ディスクグラインダー等で完全に除去する。 iv) 極端な凹凸・不陸がある場合 →凸部ははつり取り、凹部は補修材等で付け送りする。 v) 接着不良の可能性がある場合 →ディスクグラインダー等で目荒しし、接着性を高める。	補修材は、JIS A 6916 「建築用下地調整塗材」 など、製造業者の指定するものを用いる。
--	--	---



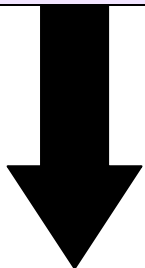
工 程	施工要領	留意点
3 前処理	(1)清掃 ・立入禁止措置をとる。 ・掃除機、ほうき等でごみ、埃を除去する。 (2)漏れ止め ・隙間及び開口部は補修材等で塞ぐ。	補修材は、JIS A 6916 「建築用下地調整塗材」 など、製造業者の指定するものを用いる。

	(3)仕上り面レベル表示 ・水準器（レーザー等）を用いて墨だしし、あたりをとる。 ・あたりは必要に応じて1～3m間隔とし、モルタル、バックアップ材等を設置する。 (4)プライマーの塗布 ・S L 材打設前日に1～2回塗布する。 ・希釈倍率、塗布量等はS L 材製造業者の仕様による。 ・塗布後、半日以上乾燥させ、埃が入らないように注意する。 ・室温が5℃以下の場合は採暖する。	(4)プライマーの吸い込みが大きいあるいは殆どない下地の場合には、製造業者に確認する。
--	--	--

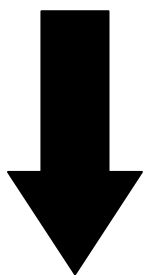


工 程	施工要領	留意点
4 練混ぜ・流し込み	(1)準備 ①セッティング ・機器（ミキサー、ホッパー、圧送ポンプ、圧送ホース等）および材料を搬入し、設置する。 ・電気配線を行う。 ・水を確保する。	①水は原則として水道水を使用する。ただし、井戸水を使用する場合は、清浄で塩分、鉄分、硫黄分、有機物等を有害量含まないものとする。

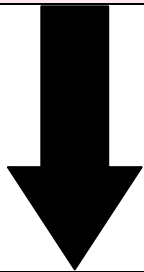
	・ホッパーに5mmふるいを設置する。 ・安全通路を確保する。 ②養生 ・通風、直射日光を防ぐため、開口部を塞ぐ。 ・室温が5℃以下の場合は採暖する。 (2)練混ぜ（袋物） ・水量、練混ぜ時間を厳守し、均一に練り混ぜる。 (3)流し込み ・スラリーは1ヶ所に流し込まず、移動しながら、墨およびあたりに合わせて均一に流し込む。 ・均し道具（トンボ等）を用いて平坦にする。 ・大面積施工時は50～100m²毎にせき板を入れると施工し易い。 (4)後片付け ・残材、洗い水、空き袋等は監督者の指示に従って適切に処理する。	(2)必要に応じて混練したスラリーのフロー値を測定し、製造業者の指定範囲に合わせる。 (3)過度のトンボ均しは材料分離や白華が発生し易くなるので控える。打継ぎ部はトンボ等でタッピングにより新旧の材料を馴染ませた後、必ず平坦に均す。
--	---	---



工 程	施工要領	留意点
5 養 生	(1)流し込み後の養生 ・ SL 材が硬化するまでは、表面不良（シワ、表層クラック等）を防ぐため、窓や開口部を塞いだままとする。 ・ 軽歩行が可能となった状態から、適度に換気し、自然乾燥状態とする。 ・ 夜間等室温が5℃以下になる可能性がある場合は採暖する。 (2)床仕上げまでの養生 ・ 常温7日、冬期は14日以上とする。 ・ 30日以内を標準とする。	硬化遅延、白華、凍結防止のため。 なお、ジェットヒーターにより採暖を行う場合は、温風が直接 SL 材表面に当たらないように注意する。 (2)長期間の放置は乾燥収縮ひび割れ、浮きの可能性有り。



工 程	施工要領	留意点
6 手直し (必要に応じて)	①表面手直し ・軽歩行が可能となった状態で、打継ぎ部の段差、気泡跡、ひび割れ、レイトンス、不陸、白華等の有無を確認し、必要に応じてサンダー、けれん棒および補修材等で処理する。	補修材は、JIS A 6916「建築用下地調整塗材」など、製造業者の指定するものを用いる。



7

完了
(次工程へ)

4. 注意事項

- ①材料の貯蔵、保管に際しては、水、湿気、直射日光を避ける。
- ②他の材料を混ぜない。
- ③外部、常時水のかかる場所、施工後水が浸入する恐れがある場所での使用は避ける。
- ④施工の際は、必要な保護具を着用する。
- ⑤材料はメーカーの定める期間内に使用する。
- ⑥仕上げ材が塗り床の場合はS L 材製造業者に相談する。

SL 材部会メーカー（50 音順）

メーカー名	住所	連絡先
宇部興産(株)	〒105-8449 東京都港区芝浦 1-2-1 シーバンス N 館 21F	建材事業部 建材販売部 03-5419-6205
新日鐵高炉セメント(株)	〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-14-5 祥ビル	S L 事業部 03-5204-8861
太平洋マテリアル(株)	〒135-0064 東京都江東区青海 2-43 青海フロンティア 15F	営業本部 03-5500-7510
(株)トクヤマエムテック	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-2-5 ERVIC 人形町 6F	東京営業部 03-5643-3601
日本化成(株)	〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町 2-3-22 ハイフレックスビル	関東支社 営業部 03-3207-8166
吉野石膏(株)	〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-3-1 新東京ビル	セラミック営業部 営業課 03-3216-2670